

通 信

沖縄生物学会第59回大会の開催のお知らせと講演プログラム

沖縄生物学会の第59回大会を下記の要領で開催いたします。今大会はオンライン口頭発表35題の発表を予定しております。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

新型コロナ(COVID-19)の国内での感染拡大、刻々と変わる情勢と今後の予測などを考慮し、完全オンラインでの一般講演・総会・池原貞雄記念賞受賞講演のみとします。大会に関連した詳細な情報は、今後も随時学会ホームページに掲載してまいりますので、ご確認くださいようお願い申し上げます。

沖縄生物学会第59回大会

日時：2022年5月28日(土曜日)

場所：Zoom Web 会議サービスを利用したオンライン開催

大会参加費：無料(参加登録されている方へ Zoom 接続情報を5月19日までに配信予定です)

問い合わせ先(大会実行委員会)：okibiomtg2022@gmail.com (メール)

大会日程

	A会場	B会場
8:30～	Zoom 開場 (入室可能)	
8:45～9:00	開会の挨拶・参加者への注意事項の説明	
9:00～10:30	口頭発表【午前の部Ⅰ】6題	口頭発表【午前の部Ⅰ】6題
10:30～10:40	休憩	休憩
10:40～12:10	口頭発表【午前の部Ⅱ】6題	口頭発表【午前の部Ⅱ】6題
12:10～13:00	休憩(昼食)	
13:00～13:50	第13回池原賞受賞講演・授賞式	
13:50～14:40	総会	
14:50～16:05	口頭発表【午後の部Ⅰ】5題	口頭発表【午後の部Ⅰ】5題
16:05～16:10	休憩	
16:10～16:25	口頭発表【午後の部Ⅱ】1題	
16:25～	閉会の挨拶	

沖縄生物学会第59回大会準備委員会

大会長：伊澤雅子

実行委員会委員：中村崇、戸田守、江藤毅、杉尾幸司、傳田哲郎、竹村明洋、小林峻、城ヶ原貴通、当山昌直

沖縄生物学会第59回大会

会期:2022年5月28日(土)

<視聴・発表について>

オンライン上に A 会場および B 会場を設定しますので、事前申し込み参加者にメールにて配布される URL にアクセスして会場に入室し、発表および視聴をお願いします。ご所属の機関によってはセキュリティ上の理由により、Zoom の使用が制限されている場合があります。ご確認の上、該当する場合はご自宅等からの参加をご検討ください。また、大会時のトラブル対応のため、予備会場として C 会場を設定し、事前申し込み参加者にメールにて配布予定です。

リアルタイムでのオンライン口頭発表と質疑応答を行います。発表は Zoom の画面共有機能を用いて行います。演者が発表スライドを画面共有すると、聴衆は同じスライドを自身の PC 画面上で見ることができます。発表時間は、質疑応答を含め 1 題 15 分 (Zoom 切替を含めた講演 12 分、質疑 3 分) です。

発表資料の保存(画面キャプチャを含む)、録音、録画、再配布は禁止と致します。

<Zoom 発表会場へのアクセス>

発表会場の URL は参加者にメールでお知らせするとともに、参加者に配信される要旨集にも記載予定です。万が一、Zoom 会場に起因するトラブルが発生した場合、予備の URL (C 会場) を臨時会場として使用する可能性があります。大会直前・当日の連絡につきましては、大会メールアドレス (okibiomt2022@gmail.com) へお願いいたします。大会事務局からの連絡も申し込み時の電子メールアドレスへ適宜お知らせをする予定ですのでご確認ください。

会場には当日のプログラム開始の 30 分前から入室出来ます。URL にアクセスして会場に入室する際は、名前の入力欄に以下のようにご記入ください。

講演者の方: 講演番号 氏名(所属) <例> A01 沖生 太郎(珊瑚海研)
参加・聴講のみの方: 氏名(所属) <例> 山猫 元気(西表大)
※講演番号は要旨集・プログラムに記載されています。

既に Zoom のアカウントをお持ちの方は、ウェブブラウザもしくはアプリにサインインした状態でセッション URL にアクセスすると、アカウントに登録した名前が表示されますので、上記の通り名前を変更してください。Zoom 画面下の「参加者」を押し、画面右に出てきた参加者リストのご自分の名前にカーソルを合わせると右側に「詳細」と表示されます。これを押し、「名前の変更」画面が表示されるので、「新しい名前をここに入力:」の欄に変更する名前を記入してください。

名前を入力欄が表示されずに会場に入室できた場合は、Zoom アカウントにサインインした状態になります。入室後、「コンピュータオーディオに参加する」という画面が表示されたらそのままボタンを押して下さい。Zoom アプリが、コンピュータのマイク・スピーカーを使えるようになります。

講演を視聴している間は、ミュート(音声マイク OFF)、ビデオカメラも OFF の状態にしておいてください。講演に対し質問・コメントをする際には質疑・応答の時間、または発表時間中に Zoom の「チャット」欄に、ご自身の氏名に加え「質問です」と書き込んでください。座長に指名されたらミュートを解除し、口頭で質問してください。また、チャットでの質問がない場合は、口頭で質問を受け付ける場合もあります。会場から退室もしくは別会場へ移動を行う場合は、Zoom の画面右下にある「退出」(赤いボタン)をクリックし、さらに「ミーティングから退出」をクリックします。別会場へ移動される場合は、該当会場の Zoom URL にアクセスして会場に入室してください。

一般講演 午前の部【9:00～12:10】 * 今大会はZoom 2会場(A会場、B会場)で実施

<Zoom A会場>

A-01 9:00-9:15

沖縄島におけるリュウキュウチクの生物文化

○当山昌直(地球研・LINKAGE)

A-02 9:15-9:30

タイモの起源を探る

○高江冽鈴奈(沖国大・経)・金城嵐太(OIST)・齋藤星耕(沖国大・経)

A-03 9:30-9:45

琉球列島におけるシラタマカズラの遺伝的集団構造の解明

○儀武滉大(産総研)・渡辺謙太(沖縄高専)・Chien-Fan Chen(Taiwan Forestry Research Institute)・井口 亮(産総研)

A-04 9:45-10:00

八重山諸島仲ノ神島に生育するタイワンハマサジの分布と開花状況

水谷 晃(Island Ecosystem Research)・○藤吉正明(東海大・教養)・河野裕美(Island Ecosystem Research)

A-05 10:00-10:15

沖縄島と九州北部におけるエゴノキの開花期と訪花動物相の相違

○有吉諒真(琉球大・院・理工)・傳田哲郎(琉球大・理)

A-06 10:15-10:30

カシノキランの無菌培養での種子発芽

○徳原 憲・佐藤裕之・天野正晴・阿部篤志(沖縄美ら島財団・総研セ・植研)

【休憩 10:30-10:40】

A-07 10:40-10:55

沖縄県に生息する有鱗目 5 種の採餌行動に関連した体温調節について

○辺土名朝暉(琉球大・院・理工)・富永 篤(琉球大・教育)

A-08 10:55-11:10

オキナワシリケンイモリとアカハライモリの長期飼育及び高齢のシリケンイモリのオスによる繁殖事例

○城間大輝(琉球大・院・理工)・徳田龍弘(BWP)・徳田 愛(HHS)・上村 亮(琉球大・院・理工)・竹中 踐(東海大)・富永 篤(琉球大・教育)

A-09 11:10-11:25

蛍光トラッキング法を用いたオキナワシリケンイモリの移動距離・範囲の調査

○西嶋 櫻(琉球大・院・理工)・富永 篤(琉球大・教育)

A-10 11:25-11:40

座間味島における外来種グリーンアノールと在来トカゲ類の利用環境(予報)

大塚虎之介(琉球大・理, 現:京都大・院・理)・戸田 守(琉球大・熱生研)・○小林 峻(琉球大・理)

A-11 11:40-11:55

アイフィンガーガエルの集団遺伝解析

○上村 亮(琉球大・院・理工)・富永 篤・崎浜秀明(琉球大・教育)・吉川夏彦(国立科博・動物)・陳 怡恵・巫 奇勳(中国文化大)

A-12 11:55-12:10

沖縄県にミミズは何種類いるのか

○大道寧祢・瀬底 蘭(琉球大カク院・球陽高校)・上村 亮・城間大輝(琉球大・院・理工)・北條 優(琉球大・熱生研)・安座間安史(琉球大・教職セ)・富永 篤(琉球大・教育)

<Zoom B会場>

B-01 9:00-9:15

大量漂着 2 題(軽石・オキアミ)

○山城秀之・嘉手納丞平・神座 森・仲村茂夫(琉球大・熱生研・瀬底研究施設)

B-02 9:15-9:30

琉球列島の海岸に漂着した軽石におけるカルエボシの記録

○藤田喜久(県立芸大)・水山 克(産総研)

B-03 9:30-9:45

加計呂麻島のアナエビ下目甲殻類

○清水直人(鹿大・院・農水)

B-04 9:45-10:00

国指定天然記念物・塩川における魚類・十脚甲殻類に関する環境 DNA 分析

○永井大翔(琉球大・院・理工)・梶田 忠(琉球大・熱生研・西表)・今井秀行(琉球大・理)

B-05 10:00-10:15

辺野古潮間帯における海藻相の季節変動

○花光 渉・萩野 航(沖縄高専・生物)

B-06 10:15-10:30

羽地内海及び屋我地島周辺におけるヒルギダマシ(*Avicennia marina*)及びウラジロヒルギダマシ(*A. alba*)の分布拡大

○新垣裕治(名桜大・国際・観光産業)

【休憩 10:30-10:40】

B-07 10:40-10:55

サンゴ礁海域での鉄鋼スラグによる酸性化緩和策として利用検討

○鈴木陽樹(琉球大・院・理工)・栗原晴子(琉球大・理)

B-08 10:55-11:10

野外から得られた沖縄島産タウナギ (*Monopterus* sp.) の卵および室内飼育により得られた仔稚魚

○糸 正幸(西原町)

B-09 11:10-11:25

浸透圧変化がヤイトハタの成長機構に与える影響

○根岸隆伍(琉球大・院・理工)・竹村明洋(琉球大・理)・福永耕大(琉球大・研推)・宇田川 信吾(琉球大・研推)・Evelyn Zhu(琉球大・院・理工)・高橋縁充(琉球大・院・理工)

B-10 11:25-11:40

琉球列島産バラハタのシガトキシン類組成と含量

○大城直雅(国立衛研)・長沢寛弥・渡辺美遥(国立衛研, 麻布大・生命環境科学)・西村美桜(琉球大・院・理工)・國吉杏子(国立衛研)・小林直樹(麻布大・生命環境科学)・小西良子(東京農大・応用生物科学)・朝倉 宏(国立衛研)・立原一憲(琉球大・理)・安元 健(日本食品分析セ)

B-11 11:40-11:55

沖縄国際大学大学生のハブクラゲによる刺傷被害の実態

○山川(矢敷)彩子・山口夏未(沖国大・地域環境)

B-12 11:55-12:10

遺伝マーカーによるソデイカ幼生の種判別手法の試み

○安富祖孝泰(琉球大・院・理工)・松崎遣大(沖縄県水産海洋技術センター)・今井秀行(琉球大・理)

【12:10～13:00】 休憩(昼食)

【13:00～13:50】 第13回池原貞雄記念賞受賞講演 Zoom A会場

研究奨励部門：水谷 晃

「人の暮らしと生物の応答：海鳥、カンムリワシ、海草とアオウミガメを例に」

【13:50～14:40】 総会 Zoom A会場

一般講演 午後の部【14:50～16:30】

<Zoom A会場>

A-13 14:50-15:05

サイエンティフィック・イラストレーション「ヤンバルクイナ (*Gallirallus okinawae*)の生態」の制作過程

○裘 夢雲(日大・院・芸)・小林 峻(琉球大・理)・中谷裕美子(どうぶつたちの病院沖縄)・森 香織(日大・芸)・木村政司(日大・芸)

A-14 15:05-15:20

仲ノ神島におけるアカアシカツオドリの国内2例目となる集団繁殖

○水谷 晃・河野裕美(Island Ecosystem Research)

A-15 15:20-15:35

沖縄島北部やんばる地域の老齢林における自然樹洞を利用する動物相

○東 哲平(琉球大・院・理工)・高嶋敦史(琉球大・農)・小高信彦(森林総研九州)・小林 峻(琉球大・理)

A-16 15:35-15:50

名護岳と西銘岳の森林動物相の比較研究(1)名護岳もがんばれ!

金城永都・金城勇斗・畑 信吾・田中啓達・岡田健吾・上原 蓬・佐藤優人・兵道静真・仲村由貴・東竜一郎(辺土名高校)・久高将洋(Yambaru Blue)・村田尚史(名護博物館)・宮里ひな子(名護市教育委員会文化課)・嵩原健二(沖縄野鳥研究会)・○小高信彦(森林総研九州)

A-17 15:50-16:05

北大東島における外来鳥類・哺乳類の生息状況

○伊澤雅子(北九自歴博)・小林 峻・傳田哲郎(琉球大・理)・佐々木健志(琉球大・風樹館)・堀江明香(大阪自博)

【休憩 16:05-16:10】

A-18 16:10-16:25

奄美沖縄世界自然遺産登録地における新たな外来種問題予防のための学校飼育動物の実態把握と普及啓発活動

○山田文雄(沖大)・塩野崎和美(奄美自然研)・石井信夫(東京女子大)・諸坂佐利(神奈川大)・久野優子(奄美猫部)・鳥飼久裕(奄美野鳥の会)・美延睦美(徳之島虹の会)・長嶺 隆(どうぶつたちの病院沖縄)

<Zoom B会場>

B-13 14:50-15:05

オオシオカラトンボ *Orthetrum melania* (Selys, 1883), 及びハラボソトンボ *Orthetrum sabina* (Drury, 1770) 若齢幼虫の形態的種同定

○金城嵐太・高江洌鈴奈・齋藤星耕(冲国大・経・地域環境)

B-14 15:05-15:20

西表島ユツン川におけるアメンボ類の分布状況および季節消長

○北野 忠(東海大・教養)・井上太之・河野裕美(Island Ecosystem Research)

B-15 15:20-15:35

西表島の水田における水生昆虫類の現状と共生型農業の試み

○井上太之(Island Ecosystem Research)・水谷 晃(IER)・大浜一将((株)星砂)・北野 忠(東海大・教養)・河野裕美(IER)

B-16 15:35-15:50

ガジュマルコバチ以外にも送粉コバチはいるのか

○越野花音・○親川博矢・○新里悠桂・○照屋有沙・中村元紀(球陽高)

B-17 15:50-16:05

沖縄島におけるキノコ探索

○久場恒和(沖縄高専・専・生資工)・田邊俊朗(沖縄高専・生資工)

アノールトカゲに関する四学会合同緊急シンポジウム開催のお知らせ

沖縄生物学会では、日本動物学会九州支部、九州沖縄植物学会、日本生態学会九州地区会による三学会合同大会に関連した沖縄地区会と合同で、下記のとおり緊急シンポジウムを開催することになりました。沖縄生物学会の年次大会とは別日程ですが、本学会会員の皆さまは参加可能ですので、是非ご参加ください。

緊急シンポジウム

「沖縄島と座間味島における特定外来生物グリーンアノールの現状を考える」

2022年6月25日（土）14:00～16:30

オンライン（Zoom）

世話人：竹村明洋・戸田守（琉球大）

（参加方法については、本学会 HP に案内を出しますので、そちらを参照してください。）

＜シンポジウムの趣旨＞

グリーンアノールはアメリカ合衆国南東部原産のイグアナ科のトカゲで、国内では小笠原諸島と沖縄諸島に定着しています。小笠原では、2000年までに父島と母島の全域に広がり、2013年までに兄島にも侵入し、分布の拡大を続けています。この間、グリーンアノールによる食害によって多数の昆虫類が深刻なダメージを受け、特に昨年には、固有種オガサワラシジミが絶滅した可能性が高いとの大変ショッキングなニュースが流れました。沖縄では、沖縄島の南部（那覇市と豊見城市）と、座間味島の古座間味地区で本種の定着が確認されていて、これまでに環境省と沖縄県が防除に取り組んでいます。それら防除事業関係者の努力によって多くの個体が捕獲され、個体群の成長がある程度抑制されるといった効果があったと考えられますが、それでも沖縄島と座間味島の双方で本種の分布範囲はじわじわと拡大しており、少なくとも、これまでと同じ規模の対策だけを続けていたのでは、グリーンアノールの拡散防止は難しいという実態が見えてきました。外来種対策は、当該種の分布域が広がれば広がるほど、その現状維持（＝少なくともそれ以上広げないこと）にかけねばならない労力は増大していきます。両島での最新の分布調査の結果は、いよいよ分布の拡大が一気に進みかねない臨界点に近い状態にあることを示していて、早急に新たな対策を打たなければ、いよいよ全体の封じ込めは見込めない状態に陥ってしまう可能性が高いと考えられます。本シンポジウムでは、小笠原の事例を通してみえるグリーンアノールの潜在的な影響について確認し、またこれまで行われてきた県と国による対策事業の結果を中心に沖縄県におけるグリーンアノールの現状を知り、研究者、関連する行政関係者、自然愛好家、それ以外の人たちの間でも情報の共有を図る契機とするとともに、今後打つべき対策について検討したいと考えています。

冒頭で触れたように、グリーンアノールの外来種としての侵略性は高く、その影響は地域の生態系に広く及んで絶滅の連鎖なども引き起こしかねません。加えてアノールトカゲの仲間は、ヤモリ類と同じように壁に吸着する指下板を備えていて、物資に付いて容易に運ばれるため、ひとたび沖縄島の主要な港や座間味港の周辺で蔓延してしまえば、別の島へも飛び火してしまう危険性が非常に高いです。すなわち、この問題は2島だけの問題ではありません。一方、沖縄島だけを考えても、北部には世界自然遺産の登録地があり、希少種・固有種の存続を脅かすグリーンアノールの侵入は、その遺産価値を大きく減じる主要因にもなりかねません。シンポジウムを通して問題の深刻さを共有できればと思います。

2021 年度 沖縄生物学会 第 2～4 回評議員会報告

沖縄生物学会評議員会が 2022 年 2 月中旬、3 月上旬、および 4 月下旬にメール会議形式で開催されました。紙面の都合から、まとめて以下に審議内容を示します。

[審議事項]

1. 池原貞雄記念賞選考委員の改選について

任期満了に伴う池原貞雄記念賞（以下、池原賞）選考委員の改選が遅れていました。そこで 2/15 に評議員会が召集され、選考委員改選の段取りについて審議・決定がなされました。次に、幹事会で候補者について検討し、原案が、3/8 召集の評議員会に提案されました。審議のなかでは、同賞に、研究奨励、教育功労、環境保護の 3 部門があることを踏まえ、同賞選考委員会はそれらの領域をカバーできるような構成員で組織されるべきことが確認され、結果として以下の方々に選考委員をお願いすることが決定されました。なお、会長・副会長の任期と同期させるため、今回の改選に限っては、同委員の任期を今事業年度限り（再選可）とすることも決定されました。

<池原貞雄記念賞選考委員>

糸正幸（(株)イーエーシー）、杉尾幸司（琉球大学）、傳田哲郎（琉球大学）、当山昌直（沖縄大学）*、豊島正憲（沖縄生物教育研究会会長）、日高道雄（元琉球大学）（50 音順；敬称略；*選考委員長）

2. 第 13 回池原貞雄記念賞の受賞者について

第 13 回池原賞研究奨励部門に水谷晃氏 (Island Ecosystem Research) の推薦がありました。規程に沿って、池原賞選考委員会による審議、会長への答申、幹事会での確認を経て、4/27 召集の評議員会で、水谷晃氏を第 13 回池原賞（研究奨励部門）の受賞者とすることが決定されました。同氏は、東海大学沖縄地域研究センター（西表島）の学術報告誌の編集に尽力され、また、海鳥、サンゴ、ウミガメ、オカヤドカリ、カンムリワシなどについて、現地に居住しながら詳しく研究をして多くの成果を公表してきました。これに加え、西表島で NPO を立ち上げ、今後も更なる成果が期待されることが授賞の理由です。

3. 大会の準備・分担・運営について

4 月の評議員会では、第 59 回大会の運営方針についても審議されました。内容としては、同大会は 2022 年 5 月 28 日（土）にオンライン形式で開催すること、口頭発表を 2 会場に分けて行うこと、第 13 回池原貞雄記念賞の受賞講演を行うこと、会期中に総会を行うことのほか、Zoom の使用や、大まかな役割分担が示され、いずれも承認されました。

4. 学会通信の掲載項目について

第 59 回大会プログラムの掲載が主となる通信 110 号（本通信）の内容（項目立て）について幹事会の案が示され、承認されました。

[報告事項]

1. 四学会合同シンポジウムについて

特定外来生物のグリーンアノールが沖縄県内でいよいよ分布を拡大しつつある事態を受け、本学会と、動物、植物、生態学会の沖縄地区会合同の企画として、緊急シンポジウムの開催を決定したことが報告されました（本通信 7 ページに関連記事）。

本通信の発行後にも、第 59 回総会での審議事項を事前に審議するための評議員会が予定されています。2 期目の任期を終え、総会をもって交代となる評議員の方々は、その会議を最後に別の人に交代してもらうこととなります。これまでどうも有難うございました。

「国立沖縄自然史博物館」誘致活動報告

前号(109号)において、国立沖縄自然史博物館誘致活動の一環として行われた自然史博物館構想企画展(開催場所:美ら海水族館)についてご報告しました。この企画展は、沖縄に自然史博物館を誘致する活動を一般の方々に周知するために行われていました。その後、誘致に関わる様々な活動が行われていましたので順を追ってご紹介します。リンクアドレスより、ぜひご視聴ください。

(1) 特別講演会「進化から自然史を語る」(2021年10月30日)

「みんなの進化展を歩く」

菊川 章(沖縄県立博物館・美術館)

https://www.youtube.com/watch?v=1N_PHosqx8M

「探検旅行と博物学から進化学へ」

長谷川 眞理子(総合研究大学院大学)

<https://www.youtube.com/watch?v=H73TIFARs8k>

「失われた世界への旅、化石植物が作った地上世界」

西田 博文(中央大学)

<https://www.youtube.com/watch?v=DAjPAQlycGc>

「共生・進化・生物多様性:自然史研究における琉球島嶼の重要性」

深津 武馬(産業技術総合研究所)

<https://www.youtube.com/watch?v=IARaLI3yfNc>

「日本初の国立自然史博物館を沖縄に!:実現に向けて」

岸本 健雄(お茶の水女子大)

https://www.youtube.com/watch?v=WzDIMd6_SHw



(2) 国立沖縄自然史博物館誘致企画展 in 道の駅ゆいゆい

国頭(2021年12月1日~2022年3月30日)

https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/documents/kikakuten_yuiyuikunigami.pdf

(3) 国立沖縄自然史博物館誘致セミナー(2021年12月27日)

<https://www.youtube.com/watch?v=nvVkZz00O2s>

「国立自然史博物館の構想について」

岸本 健雄(お茶の水女子大)

「標本とは何か、博物館とはどんなところか」

菊川 章(沖縄県立博物館・美術館)

「海外の自然史博の紹介~世界大自然科学博物館の旅~」

松浦啓一(国立科学博物館)

「国内の自然史博物館について~国内の既存施設の現場から~」

伊澤雅子(北九州市立自然史・歴史博物館いのちのたび博物館)



(4) 機関誌「ナチュラルヒストリーミュージアム」第3号(2021年12月28日)

<https://sites.google.com/view/okinawa-natural-history-museum/publication>

(5) 国立沖縄自然史博物館誘致企画展 in 沖縄県庁1階県民ホール(2022年3月22日~3月25日)

https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/documents/kikakuten_kenminhall.pdf

(6) 参議院 政府開発援助等及び沖縄・北方問題に関する特別委員会(2022年3月24日)

<https://www.youtube.com/watch?v=FnYN9pgXT3I>

沖縄県希少野生動植物保護条例について

2020年（令和2）11月1日より、「沖縄県希少野生動植物保護条例」が施行されました。同条例では、第8条に「指定希少野生動植物種の指定」とあり、動植物41種（令和3年11月1日施行）が指定されています。また第29条に「指定外来種の指定」とあり、イノシシをはじめ9種（令和3年4月1日施行）が指定されています。なお、今回の条例については、沖縄県庁（自然保護課）のHPに掲載されており、参照ください。この条例以外にも、近年、沖縄県や鹿児島県においては、市町村が制定する保護・保全条例などが続々と制定・施行されています。こうした条例の中には罰則が定められているものもあり、申請のない研究活動については適用される可能性もありますので、会員の皆様におかれましてはご注意ください。よろしくお願いいたします。

沖縄県HPのURL <https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/shiteisyu.html>

沖縄県の出版物や新たな保全利用指針のおしらせ

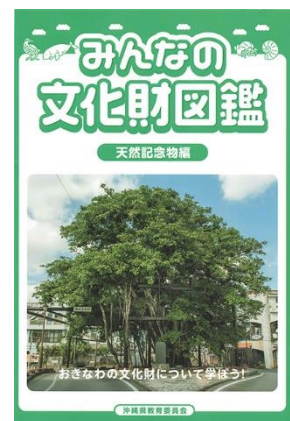
『みんなの文化財図鑑 天然記念物編』が刊行されました

2022年（令和4）3月、沖縄県教育委員会より『みんなの文化財図鑑 天然記念物編』が刊行されました。これは県内に所在する文化財等について、その概要を紹介する手引き書として平成26年度から事業が開始されました。『史跡名勝編』平成29年度、『埋蔵文化財編』平成30年度、『有形文化財編』令和元年度、『無形・有形文化財編』令和2年度刊行として続き、令和3年度に最終編となる『天然記念物編』が刊行されました。

冊子としての販売は行っていないが、沖縄県教育委員会の下記HP内においてPDFデータで閲覧できます。ただし、『天然記念物編』については掲載準備中です（しばらくお待ち下さい）。

沖縄県HPのURL <https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkakesho/index.html>

お急ぎの方は、すでに県内の小中高校をはじめ、公立図書館に配布済みですので、図書館等をご利用下さい。



「生物多様性保全利用指針 OKINAWA」の公開

沖縄県（環境部自然保護課）は、1998年に策定された「自然環境の保全に関する指針」を改訂し、生物多様性の保全と利用の両立を目的とした「生物多様性保全利用指針 OKINAWA」として新たに取りまとめました。「生物多様性保全利用指針 OKINAWA」では、沖縄県の陸域・海域の全域を対象として、自然環境や生物の分布情報、生物文化に関する情報などを収集し、標準地域メッシュと呼ばれる区画単位でまとめ、最新の手法を用いて解析されています。また、各地域の自然環境の特徴、生物多様性の保全と利用のあり方などについて「環境カルテ」として取りまとめられています。本指針は、沖縄島編、沖縄島周辺諸島及び大東諸島編、宮古諸島編、八重山諸島編の4編に分けられており、「オキナワイキモノラボ」のHPにて公開されています。

オキナワイキモノラボのURL <https://biodiversity.okinawa/guide/guideLine/index.html>

沖縄生物学会 役員一覧表

沖縄生物学会の会長、副会長、監査員および評議員は下記のとおりです(2022年3月時点)。任期は2年間で、2022年5月の総会までです。

会長 伊澤 雅子(北九州市立自然史・歴史博物館)
副会長 当山 昌直(沖縄大学地域研究所) 豊島 正憲(沖縄生物教育研究会)

監査員 城間 恒宏(沖縄県教育委員会)
兼久 和也(琉球大学) 富永 篤(琉球大学)

評議員

大学関係 比嘉 俊(琉球大学) 金城 和三(沖縄国際大学)

渡邊 謙太(沖縄工業高等専門学校)

研究機関 米倉 浩司(沖縄美ら島財団)

長田 智史((一財)沖縄県環境科学センター)

糸 正幸((株)イーエーシー)

行政機関 菊川 章(沖縄県立博物館・美術館)

高校関係 大城 直輝(豊見城高校)

花原 努(コザ高校) 照屋 香(沖縄工業高校)

中学校関係 原戸 鉄二郎(安慶田中学校)

池原貞雄記念賞選考委員会委員長 当山 昌直(沖縄大学地域研究所)

自然史博物館設立要請委員会委員長 竹村 明洋(琉球大学)

庶務幹事 戸田 守(代表幹事:琉球大学) 中村 崇(琉球大学)
杉尾 幸司(琉球大学) 竹村 明洋(琉球大学)
山川(矢敷) 彩子(沖縄国際大学) 小林 峻(琉球大学)
江藤 毅(琉球大学)

会計幹事 傳田 哲郎(琉球大学) 玉城 歩(琉球大学)

編集幹事 藤田 喜久(沖縄県立芸術大学) 城ヶ原 貴通(沖縄大学)

編集委員 佐々木 健志(琉球大学) 太田 英利(兵庫県立大学)

前田 健(沖縄科学技術大学院大学) 傳田 哲郎(琉球大学)

会員の方々からも沖縄生物学会への思い、ご意見、活動、紹介したい内容などがございましたら、事務局にお知らせいただくか、学会のホームページにお寄せ下さい。電子メールは、okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp です。

沖縄県生物学会賛助会員

本学会にご協力いただいている賛助会員は下記の通りです。

株式会社 猪原商会 沖縄営業所 所長 小林宏行
〒900-0033 那覇市久米1丁目7番10号 (098) 868-6373

株式会社 イーエーシー 代表取締役 大石正明
〒901-2127 浦添市屋富祖3丁目34番17号 (098) 942-0085

沖縄環境調査株式会社 代表取締役 中村栄秀
〒900-0003 沖縄県那覇市安謝2丁目6番19号 (098) 861-7373

原稿募集のお知らせ

沖縄生物学会誌では、随時原稿を募集しています。投稿を希望される方は、投稿規定に沿って原稿（原則として電子ファイルのみを受け付けます）を準備いただき、投稿専用アドレス（journal@okibio.jp）までお送りください。

沖縄生物学会誌は、年1回発行されており、毎年3月末に発行される予定となっています。投稿された論文原稿の審査（査読）は、早くも2週間、通常は2ヶ月程度要しています。また、受理された原稿の編集・校正・印刷業者業者との調整などを考慮し、例年、1月末までに受理された原稿を同年3月に発行される号に掲載することになっています。

これらの発行スケジュールをご理解の上、ご投稿をお願いします。皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

なお、投稿に関するお問い合わせについては、編集幹事の藤田喜久（journal@okibio.jp）までお寄せ下さい。

原稿送付先：journal@okibio.jp（沖縄生物学会誌 編集幹事）

沖縄生物学会

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内
生物系事務室 TEL：(098) 895-8577
庶務幹事 中村 崇 (098) 895-8897
FAX：(098) 895-8576、okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp
振替口座（郵便）：02030-8-30433 沖縄生物学会